

1. 開催日時：2017 年 9 月 13 日（水） 11：30～15：10

2. 開催場所：島根県立石見高等看護学院 会議室

3. 出席者

氏名	所属	職名	備考
勝部 かつこ	益田保健所	総務保健部長	所長代理
石川 由美子	益田赤十字病院	看護副部長	部長代理
水津 昌子	益田地域医療センター 医師会病院	看護部長	
周藤 由香里	島根県立松江高等看護学院	副学院長	
寺戸 恵子	石見高等看護学院同窓会	会長	
岩本 正敬	石見高等看護学院	学院長	委員長
齋藤 晃大	々	副学院長	
宅野 真由美	々	々	
吉田 真奈美	々	教務主任	
三浦 陽子	々	主任看護教員	
中島 美和子	々	々	
峯尾 まゆみ	々	々	事務局
加登 泉	々	看護教員	事務局

4. 会議次第

- 1) 委員長あいさつ
- 2) 自己紹介
- 3) 出席教職員の紹介
- 4) 学院内見学
- 5) 学校評価について
- 6) 学院の概要・教育活動等について
- 7) 評価の実施・結果について
- 8) 全体を終えての質疑応答・意見交換
- 9) 今後の予定について

5. 協議内容

1) 委員長より挨拶

委員の皆様には快く委員をお引き受けくださり感謝申し上げます。昨年度に引き続いて、学校関係者評価を実施することになった。専修学校の学校関係者評価については平成 19 年に努力義務化されているところである。学院では平成 15 年から評価委員会を立ち上げ、自己点検・自己評価を実施している。本日の委員会では、学院の自己評価に対して委員の方々から忌憚ない意見をいただくことで、自己評価の客観性、透明性を高めていきたいと考える。今年は午前からの開始になり、授業風景等をご覧いただきたい。長丁場になるが、よろしくをお願いしたい。

2) 自己紹介

それぞれの委員が学院との関係性を踏まえながら自己紹介。

3) 出席職員の紹介

学院の出席教職員の紹介。

4) 学院内の施設、設備、授業等について見学を行った（寮は除く）。

5) 学校評価について

学院より、学院のこれまでの学校評価の流れについて資料に基づき説明。

6) 学院の概要・教育活動について

(1) 学院より、学院の概要および医師会中長期計画について資料に基づき説明。

(2) 学院より、教務部目標、教育計画について資料に基づき説明。

7) 平成 28 年度についての評価の実施・結果について

(1) 学院より、評価委員の活動および自己点検・自己評価の結果について資料に基づいて説明。

(2) 学院より、「学生による学校評価アンケート」について資料に基づき説明。

(3) 学院より、「学生による授業アンケート」および「保護者アンケート」について資料に基づき説明。

(4) 学院より、「入学者アンケート」および「卒業前アンケート」について資料に基づき説明。

8) 質疑応答・意見交換

委員長より：ただ今、自己点検・自己評価表について説明させていただいたが、全体を通して何かご意見・ご質問等あればご発言いただきたい。

委員より：カウンセリングの利用状況について説明があったが、年間の利用者が 2 人というのは想像していたより少なく、もっと多いと考えていたがどうか。

学院より：この 2 名も教員がカウンセリングを受けた方がよいと判断し、橋渡しをしたケースである。自ら率先して門をたたくといった現状でない。学生が直接カウンセリングを受けるケースは少ないものの、GHQ の点数が高い学生に対してどのような関わりをしたらよいのかスクールカウンセラーからアドバイスももらっている。気になる学生には必要に応じてカウンセリングの利用を勧めるが、あまり利用がない。しかし、メンタル面の不調で学業が継続できない学生は現在いない。

委員より：利用の必要性がないのはいいことであるが、就職して数ヶ月して職場になじめない、患者と向き合えない看護師が毎年いる。ある会議の中で、発達障害の就労相談のデータによると、はじめて発達障害と診断された時の年齢が、21 歳以上だった人の割合は相談者の 5 割を上回っていたと聞いた。そのため、学院でもう少しカウンセリングを利用する人がいるのではないかと感じた。

学院より：今、たまたまそういった状況の学生がいないのかもしれない。1・2年生の机上の学習の時期から休みが目立つ学生や、高校のときから休みがちだったという傾向の学生は、今のところいない。しかし、中には学院のカウンセリングを利用せずに、直接、病院を受診した学生もいる様子である。

学院より：逆に病院ではどうか。そのような新人看護師がいるか。

委員より：病院にもカウンセラーが来られ、利用している人はいる。

委員より：臨床でも自らカウンセリングを利用する人はなく、こちらから勧めて院内の心理療法士に関わってもらっている。ダイレクトに院外の病院を受診する人もいる。

委員より：こちらでも直接心療内科を受診する人の方が多い。

新人に限って、悩みがなくても全員にカウンセリングを受けさせる取り組みをしている。

委員より：GHQ やスクールカウンセラーの講話は効果があるのか。

学院より：GHQ 調査は、入学生を理解する上では意味があると考え。保健委員の担当教員が GHQ の結果をとりまとめ、チューター教員に情報提供している。1 年生の授業に入らないため、新入生との接点が少ない教員もあり、関わりの糸口になっている。カウンセリングにつなげる意図で、各学年にスクールカウンセラーから講話をしてもらっている。カウンセリングの利用率は上がっていないが、顔がわかることで周知できる効果はある。講話のありかたを変えて、個別に対応できるような方法を検討することも必要かもしれない。

委員より：うちの学校では性格調査を行い、その結果をカウンセラーに直接取りに行かせることで必然的に関係性を持たせている。

学院より：せっかく来ていただいているので、もっと学生に関わって欲しい思いがある。例えば、協同学習のグループがあるので、グループで先生のところに行くなどして関わりをもってみてはどうかと考えている。

委員より：なにか問題があるからカウンセリングをうけるという認識を持っている人が多いが、そうではなく、自由に気軽に話ができる存在であること、そういった雰囲気づくりが必要かもしれない。また、カウンセリングを受けることでコミュニケーション能力の向上が図られるのではないか。

委員より：誰もが一度は個別的にカウンセリングを受けてみたらどうかと考える。

委員より：3 年間の積み上げ教育について、資料の空欄の計画を教えて欲しい。

学院より：教務研究会でワーキンググループを作り、教育内容を検討し、実施している。空白になっているのは現在検討している最中であり、実施していく予定である。

補足説明すると、資料で赤字になっているのは違う学年が患者役をする課題であり、患者役はオリエンテーションを受けて行っている。振り返りの時間には教員はファシリテーターとして介入する。異学年の患者役の学生も一緒に入り、学年を超えて相互で関わり合い、良い時間となっている。

委員より：(3 年間の積み上げ教育の中で) フィジコはどのように使われているか。

学院より：スキルアップセンターの狩野先生にフィジカルアセスメント研修を実施してもらおうがそのときに利用している。

委員より：時間の調整はどうされているか。

学院より：カリキュラム時間外で実施している。空きコマを利用して調整している。放課後や休日等の授業時間外ではない。

学院より：39 期生から 3 年間に渡って狩野先生からフィジカルアセスメント研修を受けることになる。教員はアシストに入れるようにフィジカルアセスメント研修を受けている。

委員より：卒業式のときにボランティア表彰をされていたが対象の基準はどうか。

学院より：昨年からの取り組みであるが、3 年間でもっとも参加が多かった学生を表彰している。

委員より：今回の「石見高看調査隊が行く」のひとまるビジョン放映時期はいつか。

学院より：第1土曜日に放送される。何回か再放送されている。今回の「乳がん」については作成中である。10月6日に放映されるのではないか。

委員より：ホームページを見せていただいた。瑞風が一面にでていた。とても素晴らしい。

学院より：季節ごとに定期的にトップページは変えている。

委員より：昨年もお伝えしたが、自己点検・自己評価の「V教育活動・教育指導」の授業準備の時間の項目の点数がもっとも低いが、研修にかなり参加されており先生方が真面目に取り組んでいることが年報を見るとよく分かる。もう少し点数が高くてよいと思う。授業準備に関してはどうしても時間外になるところはあるか。

学院より：学院の教員も家に持ち帰って授業準備をしている状況である。今年度も夏休み中にさまざまな研修が多くあり、研修の合間に夏休みを取りながら参加した。

委員より：高校訪問の結果はいかがか。

学院より：副学院長2名で、1日3校ずつ訪問した。昨年より訪問数は多い。高校の教員に意見をきくのが一番効果的である。生徒が進路についてどのように考えているかを知ることができて有意義である。本当は保護者にも話しを聞いてみたいが・・・。

委員より：高校の教員は厳しいことを言われることもあるか。

学院より：確かにそのようなこともあるが、関係性ができ貴重な情報が得られることは良いことである。

委員より：入学試験の公平性、公正性についてはいかがか。

学院より：高校の教員から石見高看に入学することが難しいとよく言われる。平成30年度入学生の一般入試から受験生が受験しやすいように、入試時期と選考方法を見直す予定である。地域推薦制度について、この制度を作る前は県内就業率50%くらいであったが、80%程度に上がってきている。一部の地域の看護師は充足してきているようである。

委員より：それでも中山間地域や西部は人材が不足している。A病院は足りていると聞いたが・・・。

学院より：A病院は、奨学金制度は打ち切っているが、採用試験はされているようである。

学院より：毎年、新人看護師が入職することに対してどうお考えか。

委員より：少人数でも新規採用は必要である。奨学金については先行投資であり、際限なくというようにはいかない。

委員長より：私は学院が開学した時から関わってきた。開学前は准看護師の時代であったが、正看護師を輩出しないといけないということで県に陳情し、医師会運営の形で学院の設立に至った。今も昔も石見高看は高い評価をいただいております、非常に嬉しく思っている。しかし、少子化や大学志向によって専門学校である学院を志望する学生が減ってきている現状である。先生方は一生懸命に学生を育てている。何とかしてこの学院の良さを分かっただき、受験生を増やしていきたいと思っている。どうか、良い考えがあればぜひお聞きしたい。

9) 今後の予定について

事務局より評価シートの送付の件と、評価の提出期限について説明した。また、本委員会の協議結果を外部に公表するにあたり、氏名、所属を公表する件について再度説明し、了承を得た。